

# 交野市教委ニュース

第108号（令和元年5月23日発行）

～第一中学校区における魅力ある学校づくり～

宇治黄檗学園を視察しました！



第一中学校区における新しい学校の整備に向けて、主に同中学校区の教職員が参加し、施設一体型で小中一貫教育をすすめる宇治黄檗学園（宇治市立宇治小学校・黄檗中学校）の学校施設を視察しました。

平成24年に伝統のある宇治小学校の敷地に黄檗中学校が新設され、校舎もすべて新しくなり、宇治黄檗学園がスタートして8年目、今年度は1,100人ほどの小・中学生が学ぶ施設一体型小中一貫校です。



地下1階地上4階の5階建て、「『きずな』を育む9年間の学びの場」をコンセプトに児童と生徒、児童・生徒と教職員、学校・家庭と地域社会のつながりを意識したつくりとなっています。



教室と廊下の間仕切りはガラスの壁



小学生教室前のワークスペース



中学生教室付近の教師ステーション

円形の交流ホール、図書室やコンピュータ室がつながったメディアルーム、メインとサブの2つずつあるグラウンドと体育館、遊具のある中庭、プールとテニスコートが4階（屋上）にあるなど、特徴的な施設を見学することができました。

参加した教職員からは、施設面だけでなく教育内容についての質問もありました。また、小中学生が同じ敷地で学び交流することにより、中学生は優しい気持ちで小学生に接することができ、小学生は中学生にあこがれを持つなど、お互いを認め合い自然に交流しているとの校長先生のお話もありました。

第二・第三・第四中学校区の教職員の参加もあり、視察をとおして施設一体型小中一貫校の整備イメージを高めることができ、学校施設の整備を今後検討するにあたり、大変参考になりました。

